



## 『おできとむし歯』

函館中央病院 歯科口腔外科

辻 司 科長

略歴：昭和63年、城西歯科大学歯学部卒業。同年より札幌医科大学医学部口腔外科学講座入局。平成4年より函館中央病院歯科口腔外科へ勤務し、平成16年に同科科長就任。医学博士。日本口腔外科学会専門医・指導医、日本口腔診断学会認定医・指導医・評議員、日本口腔蓋裂協会組織委員。平成20年より毎年インドネシア共和国における口唇・口蓋裂治療のボランティア活動に参加している。

顔に出るニキビやおできの類は、悪性疾患や特殊な場合を除いて、洗顔で清潔を保つことや市販の軟膏を用いることにより良くなる場合が多いかと思えます。しかし、中には難治性のもので再発を繰り返すもの、さらには医療機関で治療を受けたにもかかわらず良くならないものもごく稀にあります。これらの病気は主に皮膚科や形成外科が扱いますが、歯科においても治療の対象となる特殊なおできがあることをご存知でしょうか。

それは、主にむし歯が原因となつて顎の皮膚や頬、時には目の内側の皮膚におできが生ずるものです。専門的には外歯瘻がいしろうと呼ばれています。むし歯によつて歯の神経が化膿してうみの袋ができ、皮膚を破つてうみの通り道を形成した場合に発症するとされています。余談ですが、同じ理由で発症する病気に内歯瘻ないしろうがあり、こちらは歯茎などに症状が現れます。

診断は、皮膚科や形成外科の診断をもとに、特におできの周囲の歯の状態をよく観察し、さらにレントゲンを撮つて顎の骨の中の病巣の有無を確認します。皮膚病変とともにその周りの歯に病巣が確認されれば、外歯瘻の疑いが濃厚となります。

一般的な治療法としては、原因と

なつた歯の抜歯および化膿した病巣の除去を行います。しかし、病巣が小さいものであれば抜歯を行わず、根の治療のみで皮膚病変が驚く程改善する場合があります。逆に、病巣が大きく長期に渡り慢性化したものでは、適切な治療を行つても顔面外見が元通りにならないことがあり、その場合は形成外科的アプローチが必要となります。つまりこの疾患は、皮膚科や形成外科との協力のものと、早期の的確な診断と治療を行うことが大変重要であると思われま

す。お口の健康に不安があり、顎や頬、目の周りのできものでお悩みの方、実は外歯瘻かもしれません。一度口腔外科に相談することをお勧めします。

### 函館中央病院

函館市本町33-2  
☎0138-52-1231(代)

診療科目／内科・消化器内科、循環器内科、産婦人科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科など全22科目  
受付時間／8:30～11:30・13:30～16:00  
※土曜は午前のみ。  
診療科や時間帯によっては要予約。

休診日／日曜・祝日・年末年始・開院記念日(6月第1水曜)

<http://www.chubyu.com/>